

## メープルレター（83）

### 名残雪

待ちわびる春の矢先に猛吹雪です。横なぶりの雪は降りやまず、1日が終わってしまいました。街角はしばらく名残雪になりそうです。若さは素晴らしいというか、この大雪にもめげず、娘は孫を橇に乗せ、保育園まで引っ張り、橇登園です。孫は喜び、娘は筋肉痛。

弥生の月は忙しく終わっていきました。マダム田中は、天皇誕生日祝賀会の活けこみを毎年担当しているのですが、今年は、モントリオール総領事館と国際航空機関(ICAO)日本代表部がそれぞれ3月下旬に2日違いで祝賀レセプションを開催したため、準備、活けこみ、レセプション出席を駆け持つことになりました。老体に打つ鞭の数も並大抵のものではありませんでした。会場の大きさや雰囲気に合わせて花材や花器を選び、花は卸で買い込み。水揚げをしておき、活けこみのトレーニングをすると一つの活けこみに2-3日かかります。

国際航空機関（ICAO）はいわば飛行機の国連で、出席者は各国（52か国）の大使夫妻や外交官、航空関係専門家などあまり面識のない方達なので、活けこみの後は、のんびり休んで、レセプションを楽しむ程度で終わっていきます。それでも、当日は、活けこみから帰宅までは6-7時間の行程になります。

「見てください。やはり活けこみをお願いして正解でした。皆さん、活けこみの前で列を作って順番待ちしていますよ。」

ICAO 日本代表部の次席の国土交通省の方がニコニコ顔です。

「えー！ どうしてなの」

「皆さん、お花の前で記念写真を撮っています。丁度良い背景になるみたいです。それにしても、すごい列！」

そうなんだ、お花はあって好しで、鑑賞するより背景になるんだ。。。

総領事館の祝賀会の活けこみは、会場が大きいため、もう少し大きく、もう少し派手にしました。ここでも、活けこみの前での記念写真撮りが多かったようです。ただ、ここでの写真撮りは、グループ撮影が多く、人陰に花は隠れ、どこーっと探すほどぼつんと見える程度でした。年に一度、招待客の再会の機会にもなっているようです。あちこち、にぎやかに話しに花が咲いているようでした。ドリトル先生ですか？もう有頂天。会場に飛び交う着物姿のお茶の女性達を蝶々を追うように追いかけ 追いかけられ、つかまえたり、つかまえられたりしながら話しに花が咲いていたようです。この二つの行事を何とか無事にこなした翌日は、体は痛みのパッチワークとなり、体の処々はずきずきと痛んでおりました。

総領事館の天皇誕生日祝賀会の翌日は、カナダの元首相のブライアンマルルーニの国葬が隣の大きなカトリック教会で行われました。警備が厳しく、この一角にはバリケードが張り巡らされ、我が家から一步もでられないことになりました。各界、各国の人たち1400人が出席されたようです。教会の鐘がおごそかに鳴り響いていました。アイルランド出身の電気屋の息子に生まれ、弁護士になり、ベイコモーの小僧っこと言われながら這い上がって政治家になり、有能な首相になりカナダに貢献された方でした。

「24年前は、この同じ席で、父の国葬に出席していました。」

といったトルドー首相のスピーチが印象的でした。トルドー首相の父親も、カナダを愛した偉大な首相でした。癌を宣告されましたが、ボケるよりこの最後の方が良いと、手当を一切拒否して亡くられました。

マルルーニ元首相のお葬式では4人の子供達がそれぞれスピーチをしていました。完璧なバイリンガルで、器用に英語とフランス語を使い分け、父親について語っていました。偉大な政治家であった傍ら、4人の子供と16人の孫に囲まれた、子煩悩で家庭を

大事にする人でもあったようです。ステンドグラスからわずかにさす、控えめの色どりの美しい光の中で行われた国葬は、生前に吹き込んでおいたマルルーニ元首相自身の歌で締めくくられました。プロ並みの素晴らしい歌声の中で棺は運び出され、故郷に葬られました。

3月は、トロント大学の剣道大会に出席するドリトル先生に同行してのトロント行きで締めくくられました。イースターのロングウィークエンドでした。行くの、行かないのと悩んだ挙句にドリトル先生が土壇場で決めたトロント行きでしたので、わずかにやな予感がよぎりました。トロントまで500キロの高速は途中まではスムーズでしたが、途中で交通渋滞があり、いつもより1時間ほど遅れ、さてトロント市内と思ったところで、ドリトル先生は高速からの出口を間違え、気がつくと、トロント市街の遠い片隅にいたのです。パニックになったドリトル先生は、更に蟻地獄の如く、違う道へと進むことになりました。ダウンタウンは遠くに見えるのに、なかなかたどり着かないのです。2時間ほど遅れてやっとホテルに着きました。チェックインを済ませ、さて車を地下の駐車場に入れるというところで思わぬことがおきました。駐車場に空きがないのです。ぐるぐる回ること30分。ドリトル先生は疲れ果ててしまいました。

「ちょっと出口で待っていて。ベルボーイに交渉するから。」

「無理だよ、他に駐車しようよ。」

「駐車代は払ったんだから、聞いてみるわよ、にこやかに。」

マダム田中は怒っていました。

「すみません。駐車できないのよ。何回もスペース探しに回ったただけで見つからないのよ。駐車代は宿泊代金と一緒にもう払ってあるんだから、何としてくれるかしら？」

ベルボーイは、

「マダム、この駐車場は一般の駐車場と共有になっているので、今は空きがないのかもしれない。」

「それで？ だから何なの？ 駐車場の状況は私には関係ありません。もう二晩分の駐車代は払ってあるんだから、どうかしてください。」

怒り狂うマダム田中にベルボーイはおびえ、

「責任者に連絡してセキュリティカメラで探してもらいます。」

やっと見つかったたった一つのスペース。もう夜も更け、グルメを探す意欲もなくなり、近所の日本料理店（中国人のレストランのようですが）で簡単な食事をして部屋にたどり着いたのでした。翌日は、更に駐車場の状況は悪かったのですが、悪賢くなり、ホテルの入り口の前にとめ、車を点滅させ、すぐ帰ります状況にして、さっと昨夜のレストランで簡単に夕食をすませ、車に戻り、出てくる車を見つけ、その空スペースに滑りこみました。それにしても、駐車には疲れ果てました。

剣道大会は、ドリトル先生には嬉しい剣道の旧友達との再会でした。主賓席に座り、久しぶりに会う方達と話しが尽きないようでした。それにしても、何ということなのでしょう。予想もしなかったのですが、ドリトル先生のマギル剣道部の生徒の一人が2段以上の女子の部で一位となり、マギルチームがチームの部で三位になったのです。特に強いメンバーというのがチームにはいず、すぐ負けると思っていたのに、何故か勝ち続け、ミラノの世界大会に参加するカナダチームに負け三位となりました。三位に驚くドリトル先生。喜ぶチームメンバー。剣道大会は楽しく過ぎていきました。

さて、モントリオールへの帰路。駐車場の因縁付きのホテルを後にして、カナダ横断高速道路を東に走り続けること5時間半。何の障害もなく、空は青空。快適な帰路でした。たった一つの後悔は、予定していた美味しいイタリアンレストランでグルメを楽しめなかったことでした。